

下水再生水の利用促進に係る検討動向

再生水利用の主要課題	国土交通省下水道部における検討状況	国土交通省における検討状況	その他省庁における検討状況	
(1)再生水利用による社会的な効果の明確化	<p>「下水処理水の再生利用のあり方を考える懇談会」において、中間とりまとめに示した課題のうち、特に(1)(3)(5)(6)の課題について、今年度、詳細な検討を行う。</p>	<p>国土技術政策総合研究所において、下水道によるCO2削減効果について検討中である。</p>	<p>内閣府「水に関する世論調査」では、温暖化による渇水リスクへの対応として、62.6%の回答者が「再生水や雨水の利用により限られた水を有効に使う」としている。</p>	
(2)下水道事業としての範囲の明確化		<p>平成20年6月に実施された「水に関する世論調査」(有効回答1,839人)(抜粋)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雨水・再生水の利用について:使いたい86.4% ・行政に力を入れて欲しいこと:水の再利用の促進52%(H13年44.4%) 	<p>経済産業省では、山口県周南コンビナートにおいて、工業用水に下水再生水を受け入れる際の必要量や浄化レベル、維持管理手法などについて検討している。</p>	
(3)トータルコストの把握と費用負担方法の検討		<p>「下水道膜処理技術会議」を設置し、膜処理技術導入可能性について、検討中である。</p>	<p>中国経済産業局は、周南コンビナートの慢性的な冬場の水不足を受け、新南陽浄化センター(周南市港町)の下水処理水リサイクルの事業化調査を実施中である。コンビナート企業が求める工業用水の量や水質を見極め、年度内にリサイクル施設整備の基本計画を策定する予定。</p>	
(4)経済的なメリットの拡大		<p>膜処理技術のメリット、寿命を含めたコスト、国内外の導入事例などについてまとめた下水道膜処理技術ガイドラインについて、来年度(21年度)完成を目途に検討している。</p>	<p>経済産業省では、革新的膜分離技術の開発に着手。浄水工程における高効率な微量の有害物質、微生物等の除去技術の開発をめざしている。</p>	
(5)民間の参入可能性と参入形態・条件の整理		<p>「国土審議会水資源開発分科会調査企画部会」にて、総合水資源管理への転換の必要性が議論されている。</p>	<p>総合水資源管理について(中間とりまとめ案)の中で、再生水は、平常時、渇水時、及び地震等緊急時の水資源として、その特性に応じた利用の推進を図ることが目標として示されている。</p>	
(6)地域的な水資源のフロー・ストックの把握				
(7)流域単位での下水処理水の再利用の仕組みづくり				